

第1回山縣市平和に関する都市宣言検討委員会 議事概要

日 時 平成30年5月28日(月) 午後7時～
場 所 山縣市役所3階 会議室303
出 席 委員8人(市職員3人)、委員長(総務課長)、事務局2人(総務課職員)

1 あいさつ

- (1) 市長あいさつ
- (2) 委員自己紹介

2 議事

- (1) (仮称)山縣市非核平和都市宣言(案)の検討について
下記、事務局案をもとに議論した。

○事務局案

(仮称)山縣市非核平和都市宣言(案)

世界の恒久平和を実現することは、人類共通の願いであり、私たちが目指す「水と緑を大切に、活力ある山縣市」の実現にも必要不可欠です。

しかしながら、依然として世界各地では紛争が絶えず、核兵器の存在により、人類は脅威にさらされています。

私たちは、世界唯一の被爆国である日本国民として、核兵器のない平和な世界と、また、山県市民として、清流と緑に囲まれたこの「ふるさと山県」を、次代を担う若い世代へ引き継いでいかなければなりません。

そこで、市民一人ひとりの平和への願いをこめ、ここに「非核平和都市」を宣言します。

○主な意見

- ・ イデオロギーが出ていなくて穏やかな宣言。
- ・ 他自治体の宣言と比べても、内容はだいたい網羅されている。
- ・ この宣言をきっかけに、小中学生が戦争について学習する機会を得られるようになるといい。
- ・ 「水と緑を大切にしたい」ということが強調されているが、重なる表現が前段にも中段にもあるので、もう少し簡潔にできるといいのでは。
- ・ 「世界唯一の被爆国である日本国民として」ということを日ごろ市民の皆さんが思っているのか疑問。
- ・ 「世界唯一の被爆国である日本国民として」さりげなく日本の歴史に触れていてよい。
- ・ せっかく宣言するなら、「水と緑を大切に」「清流と緑」といった表現で、さりげなく山県市をアピールすることが大切。

- ・ 宣言文が長いということではないが、「しかしながら…」の段落は、なくても意味は通じるのではないか。

事務局回答 → 理想と、そうではない現状を表し、だからこうするのだ、という構成にしている。しかし、なくても意味は通じるし、ないほうが都市宣言の構成に近づくかもしれない。

- ・ 中段で「私たちは、」とうたっているので、「また、山県市民として、」はいらないのでは。

事務局回答 → 「日本国民」としては「平和な世界」を、「山県市民」としては「ふるさと山県」を引き継いでいかなければならないと、ふたつの責務を表現している。

○今後のスケジュール

都市宣言はタイミングが重要であり、都市宣言は平成25年に合併10周年を記念して制定している。今回の平和都市宣言は、特別なタイミングはないが、「第8回平和首長会議 国内加盟都市会議総会」が高山市で開催される11月までの制定を目標としている。

3 その他

(1) 第2回委員会日程について

日 時 平成30年6月13日(水) 午後7時～